

●ウイスキー・ラベル物語-15

植民地で再生されたアメリカン・ウイスキー(5)
—ケンタッキーを支えるバーボンとサラブレッド—

か わい だし
河 合 忠
Tadashi KAWAI



禁酒法時代の後に乱立した蒸留所

第一次世界大戦へ参戦し、戦時中法案として連邦議会を通過した禁酒法は、その1年後の1920年1月17日に施行されて、禁酒法時代に突入した。アイルランドやスコットランドからの正規の輸入はほぼ完全に停止されて、アイリッシュ・ウイスキーは壊滅的打撃を受け、その後遂に再興することはできずに今日の衰退を招いた。前述のように、闇ルートでカナディアン・ウイスキーが輸入され、品質の悪い偽のアイリッシュがアメリカ市場に出回った。米国内でも、薬用酒としてウイスキー造りを連邦政府から許された7つの蒸留所が細々と蒸留を続けたが、他の多くのウイスキー蒸留所は閉鎖を余儀なくされた。しかし、老舗の蒸留所の所有者は密かに先祖から受け継いだ貴重なイースト菌株を宝物として保存し、1933年に禁酒法が廃止される数年前から、その動向を察知してウイスキー造りの準備に怠りはなかったはずである。

1933年、禁酒法の廃止とともにウイスキー造りが解禁されると、I.W.ハーパー社のバーンハイム蒸留所(The Bernheim distillery)が再登録第1号(DSP-KY-001)として認可された。ちなみに、政府から正式に認可された蒸留所には順次、登録番号DSP-KY-000が与えられている(DSP: Distilled Spirits Producer, KY: Kentucky)。その他にも老舗や新規の蒸留所が入り乱れて再登録を受け、アメリカンの生産が活発化した。しかし、10年足らずしてアメリカン業界にとって、再び存亡の危機が訪れた。すなわち、1941年、第二次世界大戦に突入し、

1945年終戦までの5年間、産業用アルコール以外にはバーボンの生産はすべて中止された。しかし、老舗の蒸留所は長期熟成中のバーボンを軍隊へ供給し続けたが、多くの蒸留所は業界から姿を消していった。



第二次世界大戦後に再度バーボン復活

戦後の経済復興に伴い、バーボン生産は再び活性化して世界中にその販売市場を広げ、もちろん、戦後の日本への供給も爆発的に増えていった。しかし、酒類の多様化、スコッチ、カナディアン、ジャパニーズなどとの競争も激化し、1960年代に入りバーボンの需要は減り、大手メーカーは生産過剰状態に陥った。多くの弱小メーカーが企業買収、経営統合など厳しい競争に曝されたが、老舗の有名ブランドはその独特の生産技術を含めて大手企業へと移り、いわゆる「チェーン・ラベル」が盛んになった。もちろん、劇的な経済成長を遂げたわが国の大企業からの資本参加も加わって、世界のウイスキー生産は大きく様変わりし、ストレートからブレンドへと急速に展開していった。すなわち、禁酒法時代に大量に出回ったカナディアンのソフトな香味に慣れた米国市民は、その後複数のストレートをブレンドすることで、ソフトでまろやかな香味を好むようになったことも一因と考えられている。

一方、世界の経済が上向きの中で、ウイスキー生産が絶対量としては増加していったが、生産過剰気味の危機から脱しようと、小数生産の高級品への志向が高まりつつあった市場を背景にシングル・モルト・スコッチへの郷愁もファンの間で根強く浸透していった。バーボンについても、4~6年間の熟成

が常識であったが、生産過剰から長期熟成を余儀なくされた老舗の蒸留所からさまざまなプレミアムが市場に供給され始めた。これによって、長期熟成の“香味”が見直され、しかも高級感を誘う洒落たデザインのリキュールやデキャンター・ボトル、個性的なパッケージ、飲み頃の旬を取り入れた多種多様なプレミアム・ウイスキーが市販されるようになり、1990年代には再びバーボンに対する関心が高まった（写真1, 2）。



バーボンのもつさまざまな香味

本シリーズの第1回でお断りしたように、筆者はウイスキーのテスティングを趣味としているわけではないので、ウイスキーの香味については自信どころか全く分からない。そうはいっても、スコッチとバーボンの違いくらいは分かるし、バーボンの銘柄によってもさまざまな香味があることは経験しているが、具体的にはとても判別することはできないので、いろいろな日米の文献を参考に一般的なことをまとめてみよう。

バーボンの香味は、大きくライトボディ（light-bodied）、ミディアムボディ（medium-bodied）、とフル・ボディ（full-bodied）の3群に分類されている。しかし、アメリカと日本の文献をいろいろ読み漁っていて気がついたのだが、同じブランドで



写真1 ワイルド・ターキー レア・ブリード

Austin Nichols Distilling Co. が所有する Wild Turkey 蒸留所はケンタッキー州のローレンスバーグにあり、赤い七面鳥の図柄を印したボトルで知られている。ここに示す Rare Breed は、熟成がピークに達した樽から厳選して製品化された樽出し原酒で、それぞれの樽によってアルコール度が多少異なるので、Barrel Proof と書かれており、ボトルの形にも特徴がある。この他にも、いろいろな蒸留会社から、独自に工夫した形やデザインのボトルでプレミアム銘柄が売り出されており、通常は普及品よりも高価である。

あっても異なるグループに分類されている場合が少なくない。人によって香味の感じ方が異なるということは当然であろう。しよせん、バーボンの香味といっても絶対的な基準はなく、蒸留所の製品自体が時代とともに変わったこともあるが、それぞれの人の好みによって楽しめばよいということであろう。

一般的には、スコッチとりわけモルト・ストレートは長い年月熟成させているので、ストレートのままでまず味わい、次に水と混ぜて閉じ込められている香味を引き出してから口咽頭全体で香味を楽しむことになる。しかし、バーボンは、最近のプレミアムを除けば、一般的に熟成期間が4～6年と短いので、そのままやや強烈な香りを嗅ぎ、口でまろやかさと甘味を味わうことになるが、その香味にはさまざまな製造工程での違いが微妙に影響する。まず原料のトウモロコシ・ライ麦・モルトの比率が重要で、トウモロコシの比率が多くなるとライトになり、ライ麦の比率が多くなるとフル・ボディとなる。さらに、蒸留時のアルコール度が高くなれば原料の風味が弱まり、低くすればそれだけ原料の風味が残されることになる。アルコール度を高くするとそれだけ多量の商品を生産できるので、コストダウンにつながるが、香味に特徴がなくなるというわけである。もちろん、熟成する樽の焦がし方も重要である。バーボンはアメリカンオークの新樽を使うように定められているので、それだけバニラの香りと甘さが強くなるし、内面の焦がし方が強いとそれだけ“焦げ臭い”バーボンの特徴が強調されることになる。いずれにしても、愛飲家自身の鼻、舌、さら



写真2 デキャンター・ボトルの一例

1963年に OLD TAYLOR から売り出されたデキャンターを兼ねたボトルである。この他にも、いろいろな会社からさまざまなデザインのデキャンターが売り出されている。

に喉元で好きな香味を楽しむことが最良であることは言うまでもない。



100種類を超える多種多様なケンタッキー・バーボン

バーボンのうちでも、ケンタッキー州で蒸留されたもののみがケンタッキー・ストレート・バーボン・ウイスキーと明記することができる。そのケンタッキー・バーボンは、以前にも述べたように、蒸留所はケンタッキー州の北部地域に集中していて、現在のバーボン郡では製造されていないばかりか、皮肉にもバーボン地区では禁酒を勧める風潮が強いという(図1)。

筆者が集めることのできた銘柄だけでも130種類余に上り、ありとあらゆるブランド名のケンタッキー・バーボンがある。家内工業的に小規模な蒸留所で伝統的な香味のバーボンを製造している会社が多いし、大手蒸留会社から原酒を樽のまま仕入れて、それらをさらに独特の技術を駆使して熟成させ、瓶詰している銘柄品も少なくない。さらに、ケンタッキー州で製造された原酒をケンタッキー州以外の土地で熟成、瓶詰している銘柄もある。ただ、それぞれに独特の銘柄の由来があり、瓶ラベルのデザインや描かれている図柄はさまざまである。それぞれに歴史があって興味深いのだが、銘柄の「チェーン・ラベル」、蒸留所の経営統廃合など複雑で、現時点では情報収集が未だ不十分で、今回は表記を諦めることとし、現存する主な蒸留所をそれぞれの地域ごとに列記したのが表1である。ただし、インターネットで容易に検索することができるので、いろいろな銘柄のバーボンを味わうことも楽し



図1 ケンタッキー州の主なウイスキー生産地

ケンタッキー州の州都はレキシントン(Lexington)であるが、バーボンの生産地はオハイオ川の港に近いルイビル(Louisville)を中心に、北部に集中している。バーボン・フェスティバルが行われるのは、バースタウン(Bardstow)である。

いのではないだろうか。インターネット情報の入門として、米国の <http://www.straightbourbon.com/> があるし、多くの蒸留所・会社が独自にホームページをもっている。日本では、日本バーボンウイスキー普及協会があり、神奈川支部長の酒井達明氏が提供する <http://www.bourbon-whiskey.com/> が参考になるし、いくつかの輸入業者が独自のホームページをもっている。

筆者がウイスキーに興味をもつ原点となった英語のスペルの違いについて、ほとんどのアメリカンはwhiskeyであるが、例外的にwhiskyと書かれている銘柄は「EARLY TIMES」, 「OLD KENTUCKY TAVERN」, 「MAKER'S MARK」, 「NATHAN STONES」, 「OLD FORESTER」である(写真3)。これらの蒸留所を訪問して直接訊ねる機会がなく、またインターネットを介してホームページを覗いたかぎりでは、「whiskyとスペルする理由」については言及しておらず、筆者のウイスキー行脚は今後も止まることはないだろう。



バーボンとケンタッキー・ダービー

バーボン生産がケンタッキー州の重要な産業であるが、その他にサラブレッド競走馬(The Thoroughbred)の生産地として、さらにケンタッキー・ダービー(The Kentucky Derby)などの競

表1 ケンタッキー州北部に集中する主なバーボン蒸留所

ルイビル地区 (Louisville)
・EARLY TIMES 蒸留所
・OLD FORESTER 蒸留所
・BERNHEIM 蒸留所 (I.A. Harper 社)
・OLD RIP VANWINKLE 蒸留所
・MCLAIN & KYNE 蒸留所
フランクフォート地区 (Frankfort)
・BLANTON 蒸留所
・BUFFALO TRACE (旧 ANCIENT AGE) 蒸留所
・OLD GRAND-DAD 蒸留所
・OLD CROW 蒸留所
・OLD TAYLOR 蒸留所
・BOURBON DE LUXE 蒸留所
・L&G (LABROT & GRAHAM) 蒸留所
ローレンスバーグ地区 (Laurenceburg)
・FOUR ROSES 蒸留所
・WILD TURKEY 蒸留所
バースタウン・クラモント地区 (Bardstown-Clermont)
・JIM BEAM 蒸留所
・MAKER'S MARK 蒸留所
・BARTON 蒸留所
オーエンスボロ地区 (Owensboro)
・EZRA BROOKS 蒸留所
・YELLOWSTONE 蒸留所

馬も重要な産業となっている。この2つの産業が盛んになったのは、必ずしも偶然ではないらしい。

ケンタッキー州のシール(写真4)を見ると、英語でStateの他に、Commonwealthも使われている。英国移民が最初に北米東海岸に定着し、そこから周辺に開拓地を広げて誕生したマサチューセッツ州(Massachusetts)、ペンシルベニア州(Pennsylvania)、バージニア州(Virginia)、そして巨大バージニアから分離したケンタッキー州(Kentucky)の4州のみがCommonwealthを自称している。その由来は、17世紀半ば頃イギリスで使われた「人民の共通合意による政府」と言ったほどの意味をもった言葉であって、いかにも英国からの開拓移民らしい表現である。そしてケンタッキーの州歌は、もちろん、有名なフォスター(Stephen Collins Foster, 1826～1864)が1853年に作った「My Old Kentucky Home」である。

米国では、1999年から順次、それぞれの州から独特のデザインを有する25セント貨幣が発行され、畳半畳程度の厚紙の大きな合衆国地図に順次はめ込んでいるコレクターも少なくない。ケンタッキー州のThe Kentucky Quarterは2001年に発行され、「MY OLD KENTUCKY HOME」と印され、古

い開拓時代のホームとサラブレッド競走馬が配されている(写真5)。

ケンタッキーでバーボン造りが始まった18世紀後半から、オハイオ川－ミシシッピ川の交通路を使ってその販路を広げていったことは、前述したとおりである。そのとき使った筏や船を、高価なバーボンとともに売り払い、その現金で高級馬を購入し、それに乗って陸路遥かに帰途に着き、ケンタッキーの開拓地でその馬を売って二重、三重の商取引を行ったという。そうして持ち帰った高級馬からサラブレッドが誕生したらしい。定説によると、現在のサラブレッド競走馬のルーツは18世紀半ば頃、3匹の原産種馬とのこと、現在米国で誕生するサラブレッドの子馬約3万2,000頭のうち、実に9,400頭がケンタッキー州で誕生したもので、レキシントン－ファイエット郡が世界有数の取引市場となっている。多数のサラブレッド子馬が生産されることから、必然的に競馬も盛んであり、ケンタッキー州には5つの競馬場があり、年間330万人の競馬ファンが入場するという。最も有名なレースがケンタッキー・ダービー(The Kentucky Derby)で、英国、サーレイ(Surrey)で1780年から行われているエプソム・ダービー(The Epsom Derby)にあ



写真3 数少ない「whisky」と綴られるバーボン

ほとんどのバーボンは、アイリッシュと同じ「whiskey」のスペルを使っているが、数種類はスコッチと同じ「whisky」のスペルを使っており、ここには2種類を示した。

左は、EARLY TIMES、すなわち開拓時代を意味し、中央の絵柄も開拓時代の質素なホームを記している。リンカーンが大統領に選出された1860年、ルイヴィル地区で創業したEarly Times蒸留所で造られる伝統ある人気銘柄である。禁酒法の施行とともに一時閉鎖されたが、その後ブラウン・フォーマン社が買収した。

右は、OLD FORESTER、1870年、ルイヴィル地区で創業したブラウン・フォーマン社で造られる銘柄である。創業者のブラウンが尊敬していた南軍のN.B. Forester将軍に因んで命名されたという。



写真4 ケンタッキー州のシール

ケンタッキー州の最初のシールは1792年に作られたが、1814年の州庁舎の火事で失われ、その後少しずつ異なる複数の類似シールが出回った。ここに示すのは、1962年に正式に定められたもので、外周の上にケンタッキー州(COMMONWEALTH OF KENTUCKY)と書かれ、下は州花のThe Goldenrodを配している。中央の男性2名のデザインが新しく定められたもので、左がケンタッキーの辺境開拓者、右がフロックコートを着用した政治家で、両者が抱き合い、協力を誓っている。2人の男性を囲むように、「UNITED WE STAND, DIVIDED WE FALL」と印されているが、初代のケンタッキー州知事、Isaac Shelbyが好んだ「Liberty Song」の一節をもじった言葉であるという。古い巨大バージニア州の西部辺境の開拓地に1792年に誕生したケンタッキー州の開拓者精神が見事にデザイン化されている。



写真5 2001年に発行されたケンタッキー州の25セント貨幣

1999年から始まり、順次50州すべてから独自の25セント貨幣が発行される予定である。米国旅行の時に、さまざまな25セント貨幣のあることを確かめるのも楽しみであろう。

やかって、1875年5月17日に第1回が行われ、一度も中断することなく今日に至っている。ケンタッキー州の休日となっている毎年5月の第1土曜日、ルイヴィル(Louisville)にあるチャーチル・ダウンズ(Churchill Downs)競馬場で三歳馬が出場する(写真6)。アメリカ競馬の三冠レース(ケンタッキー・ダービー、プリークネス・ステークス、ベルモント・ステークス)のうち一番手として行われるレースで、日本の三冠レース(皐月賞、日本ダービー、菊花賞)の皐月賞に当たる。そのレース直前の2週間はさまざまなイベントが企画され、多くの競馬ファンだけではなく、世界中から多くの人たちが集まる一大観光行事となっている。ちなみに、ケン



写真6 ケンタッキー・ダービーが行われるルイヴィル地域のチャーチル・ダウンズ競馬場

第1回のケンタッキー・ダービーが行われたのは1875年5月17日で、現在まで一度も休むことなく毎年5月第1土曜日に開催されている。それ以前の2週間にわたって、さまざまなイベントがルイヴィル地方で行われる大きな祭りとなっている。

タッキー・ダービーに因んだ銘柄のバーボンもいくつかある(写真7)。また、ケンタッキー・ダービーと名のつけられたカクテルもあり、バーボン・ウイスキー2/3とベネディクティン1/3を混合し、レモンピールを添えたもので、レースの興奮を彷彿とさせる酔いを誘うからであろうか。



ケンタッキーで開催されるもう1つのお祭りに、バーズタウン(Bardstown, KY)で毎年開催されるバーボン・フェスティバル(Bourbon Festival)がある。このフェスティバルは1993年に始まり、毎年9月の第3週に5日間にわたって開催され、全米や世界の各地からバーボンファンでバーズタウンのスポルディング公園周辺が大いに賑わうという。主な蒸留所の見学、ウイスキー造りの専門家によるセミナーもあり、バーボンにまつわるさまざまなイベントが開催されるが、最終土曜日の夕方にはガラパーティーが、ステファン・フォスター公園内で開催され、2,000人以上の人たちが集まって盛り上がるという。残念ながら、筆者はいまだ参加する機会をもっていないが、近い将来一度は参加したいと願っている。



写真7 ケンタッキー・ダービーに因んだバーボンの銘柄

左は、BELLE OF KENTUCKYと名づけられたストレート・バーボンで、1889年ケンタッキー・ダービーでの優勝馬を称えて、クララモント地域にあるThe Clear Spring Distilling Co.が瓶詰して、売り出したもの。

右は、Blanton's Goldバーボンで、ケンタッキー・ダービーの競走馬を冠したキャップと特異な形のボトルで知られており、すべて唯一つの樽からのみ瓶詰されたシングル・バレルで、ボトルごとに蔵出し日、樽ナンバー、瓶ナンバーが記されている。